

令和2年度府中町まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

- 1 日 時 令和2年8月5日（水）
午後2時00分～午後3時30分
- 2 場 所 安芸府中生涯学習センター
くすのきプラザ 1階 ギャラリー
- 3 出席委員 （9人）

座 長	上之園 公 子	〔学〕
委 員	中 村 順 子	〔産〕
委 員	桑 原 強	〔官〕
委 員	平 野 茂	〔金〕
委 員	原 田 悟	〔労〕
委 員	藤 川 真 治	〔言〕
委 員	堀 部 明 美	〔住〕
委 員	松 本 真奈美	〔住〕
委 員	森 岡 小津恵	〔住〕
- 4 欠席委員 （0人）
- 5 議事次第
 - 1) 開会
 - 2) 町長あいさつ
 - 3) 府中町人口ビジョンの見直しおよび次期府中町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について
 - 4) 閉会
- 6 町出席者

町 長	佐 藤 信 治
副 町 長	末 平 顕 雄
教 育 長	高 杉 良 知
（関係部長）	
総務企画部長	増 田 康 洋
財 務 部 長	胡 子 幸 穂
町民生活部長	金 光 一 隆
福祉保健部長	山 西 仁 子
建 設 部 長	井 上 貴 文
教 育 部 長	榎 並 隆 浩

消 防 長 脇 本 哲 也

(事務局)	総務企画部次長	谷口充寿
	政策企画課課長補佐	高橋幹
	政策企画課企画調整係長	西山晋

7 傍聴者数 1人

8 議事の内容

(午後2時00分開会)

1) 開会

○座長(上之園委員)

本日はお忙しいところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。会議の座長を務めております、比治山大学現代文化学部子ども発達教育学科の上之園でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

定刻となりましたので、「令和2年度 府中町まち・ひと・しごと創生有識者会議」を開会いたします。

本日は、9名全員の委員にご出席いただいております。

それでは、事前に事務局からお送りしております資料の表紙にある次第に沿って、会議を進めてまいります。

なお、会議の終了は、15時30分頃を予定しています。

2) 町長あいさつ

○座長(上之園委員)

まず初めに、開会にあたり佐藤町長ご挨拶をお願いいたします。

○町長

皆さんこんにちは。令和2年度府中町まち・ひと・しごと創生有識者会議の開会にあたりまして、ご挨拶を申し上げます。

皆様方におかれましては、平素から府中町行政各般におきましてご理解とご協力を賜っておりますことをお礼申し上げます。また、本日はご多用中にも関わらずご出席頂きまして、誠にありがとうございます。

さて、国では昨年12月に第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定致しまして、人口減少に歯止めをかけるとともに、地方創生の目指すべき将来を、東京圏への一極集中の是正と、将来にわたって活力のある地域社会の実現として、取り組みの方向性を示したところであります。また、本年7月の「まち・ひと・しごと創生基本方針2020」では、新型コロナウイルス感染症の拡大とそれに伴うさまざまな影響や顕在化した課題に関し、

地方創生におきましても、これらの課題を克服する施策の推進が示されているところであります。

これまでお示しをしておりますとおり、府中町では来年度から新たな第2期総合戦略をスタートすることとしております。現在取り組みを進めておりますが、総合戦略の策定にあたりましては、今申し上げました国の動きや、府中町の地域の特性を踏まえた戦略を作っていく必要があると思います。

この後、担当から次期総合戦略の策定および人口ビジョンの見直しに向けた方向性についてご説明を致します。委員の皆様におかれましては是非とも忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げまして、開会の挨拶とさせていただきます。よろしくお願い致します。

3) 出席者紹介

○座長（上之園委員）

ありがとうございました。

続きまして、出席者の紹介です。

委員につきましては昨年から変更はございません。町側の出席者につきましては、異動がございますので、事務局から紹介をお願いします。

○総務企画部次長兼政策企画課長

町側の出席者について、関係部長及び事務局において異動がありましたが、本日は新型コロナウイルス感染症対策として会議時間短縮のため、紹介は座席表をもって代えさせていただきます。

なお、次期総合戦略策定に係る業務の委託先であります、(株)エブリプランさんがオブザーバーとして参加しておりますのでご紹介いたします。

4) 資料説明・意見交換

議事：府中町人口ビジョンの見直しおよび次期府中町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

（資料1、参考資料1～2を一括して事務局から説明）

○座長（上之園委員）

ただいま事務局から説明がありましたが、質問や、皆様からのご意見等を幅広くお聞きできたらと思います。

質問やご意見等がございましたら、お願いいたします。

○森岡委員

いくつかご質問したいことがあります。

資料１－２の「２．現状・課題」の「アンケート結果」のところですが、「子育て、教育分野はある程度の評価を受けているが、依然としてニーズが高い」とあります。また、他にも、「町として注力しているにも関わらず評価の低いものや要望が多いものがあり、取り組みの状況が住民から見えにくく、認知されていない可能性がある。」と、ニーズが高いことについて書いてありますが、ニーズというのは具体的にどのようなものが挙げられているのでしょうか。例えば、保育所を新たに設置したり、「ネウボラふちゅう」など新たな取り組みをしたりしていますが、これ以上もっと取り組んでほしいというニーズなのか、それとも、もっと違うところをどうにかしてほしいというニーズなののでしょうか。もしかしたら、やっている施策と住民のニーズにずれがあるのではないかと思いますので、具体的にどのようなニーズが挙げられているのか教えていただきたいです。

２点目ですが、居住地としての魅力向上の強化についてです。これも、資料１－２の「アンケート結果」ですが、「暮らしやすさについて町民の評価は高いが、一方で、府中町からの転出者や町外からの通勤者からは、マイナスポイントとして、住環境（価格や住宅の広さ等）が多く挙げられています」と書いてあります。正直な話、府中町はちょっと家賃が高いという話だと思うのですが、今日本全体で実質賃金が下がっているとされ、人口も減っているという中で、府中町を選んでもらうためには、家賃はどうしてもネックになってくると思います。特に、２０～３０代の子育て世代ならなおさらです。このような状況の中で、ちょっと高いことを超えられるような施策がないといけないのではないかと思いますので、どのようにお考えでしょうか。

まとめると、１点目は子育て、教育分野のニーズは具体的にどのようなことが出ているのか、ニーズと施策にずれはないのかということ、２点目は地価や家賃が高いことに対する施策は何かお考えなのかということの確認です。

○座長（上之園委員）

質問が２点ということではよろしいでしょうか。それではまず、子育て、教育に関するニーズについて、それから２点目に、居住地としてのマイナスポイントに対する施策について、それぞれお願いします。

○総務企画部次長兼政策企画課長

まず１点目、子育て、教育分野に対するニーズが高いことについて、具体的なニーズについてのご質問ですが、アンケートの設問の中で「府中町がどのようなまちになってほしいですか」、「府中町が取り組むべきものは何ですか」という設問がございました。その中で、「子育てがしやすいまち」など、

子育てや教育環境の充実を望む意見が5割近く出されたということが前提としてございます。今回のアンケートは全体的な計画の策定に係るものであるため、子育てや教育に係る具体的な事項については質問として設定しておりませんでしたが、自由記述の部分におきまして、例えば、「保育所の増設等による待機児童対策」、「子どもの医療費負担軽減」といった要望が見られました。

次に、住民からのニーズはマッチしているかということでございます。現在進めている施策につきましては、平成28年に策定した府中町の全体計画である「第4次総合計画」のほか、それぞれの分野ごとに計画を策定して取り組みを進めているところですが、それらの計画についてはアンケート調査等により住民ニーズの把握を行った上で策定をしております。なお、今回のアンケートで頂いたご意見につきましても、現在改訂作業を進めている第4次総合計画において、具体的な取り組みである実施計画への反映を検討していきたいと考えております。

続きまして、住環境のマイナスポイントについてです。こちらにつきましては、確かに住環境がマイナスポイントであるというご意見が多く挙げられていますが、一方で、住宅市場においてそれだけの評価がされているためであるとも考えられ、必ずしもマイナスではないと思っております。また、府中町は空き家率も低く、マンション建設も進んでいることから、行政で家賃等に係る施策を行うことは現状では必ずしも効果的ではないと考えております。このことから、町では、家賃等に係る直接的な施策を行うよりは、都市基盤の整備や各種施策を充実させることで、価格に見合う「暮らしたい」「暮らし続けたい」と思うまちを目指していきたいと考えています。

○森岡委員

ご回答ありがとうございます。

ちょっと細かい話になるのですが、マンションの件について、例えば3LDKの賃貸に住みたいと思った時に、府中町では賃貸は3LDK以上になると急に数が少なくなり、分譲マンションを買うしかなくなってしまいます。私も含めて、府中町には転勤で来ている方も多いと思いますが、このような人たちは、本当は住み続けたいのに、3LDK以上の賃貸がほぼ無いから住めないということもあります。そのため、マンションがたくさん建っていて住む場所自体はあるのですが、転勤があるので賃貸がいいという人や、賃貸の方が気楽だという人もいますので、家賃を下げてほしいということではなく、選択肢があるように、自治体や民間と連携して頂いて、住宅が循環する仕組みがあると嬉しいと思います。

○座長（上之園委員）

それでは、府中町に住んでおられて子育てに関わっている方ということで、松本委員いかがでしょうか。

○松本委員

私は子育ての方面に関わる人が多いのでそういう話になるのですが、今回コロナの影響で子どもの元気な声や笑顔がなかなか見られない状況の中、やっと最近顔が見えたり声が聞こえたりして、本当に嬉しく思っています。その中で、出産して保育園に預けて、仕事に就いたけど、コロナでまた子どもを預けられなくなったり、仕事が苦しくなったなど、様々な悩みを聞く機会があり、そういう時に、行政と繋げていくお手伝いをしたら、“本当に府中町はありがたいし、働きやすい”という子育て世代のお母さま方から嬉しいご意見を頂きましたので、今日はご報告したいと思いました。

自分の娘は東京の大学に通っていて、今こちらに帰ってきてオンラインで勉強しているのですが、「府中町にずっと暮らしたい？」「結婚してもずっと子育てしたい？」と聞いてみました。そうしたら、「そうしたい」と言ってくれましたので、「そうなの、でもなかなか難しいところもあってね」という感じで話をしました。その中で、「どうしたらみんな府中町にいてくれると思う？」と聞いたら、「府中町ってすごく良い所だし、自分のふるさとだと思っているので、府中町のブランドとか良いもの、商品をもっとPRするのもいいんじゃないかな」と娘が言っていました。そのように、若い子どもたちにもアンケートを取ることで、府中町の良さや新しいイメージが見えてきていいのではないかと感じました。

次期戦略の4番目の新しい柱として魅力発信を取り上げられていますが、暮らしたいまちのイメージとして、特に子育て世代に府中町を選んでもらえるような魅力を掲げられたということが、すごく素敵だと感じました。市内に住んでいる知り合いに「府中町のことをどう思う？」と聞いたら、「府中町に行きたい、暮らしたい」と言われて、府中町はゴミのことや、子育てに手厚いことが良いと言ってくれたのが嬉しかったです。

これからも大変だとは思いますが、良い情報を聞いたらまたお知らせしたいと思います。

○座長（上之園委員）

同じように子育てに関わっている方として、堀部委員いかがでしょうか。

○堀部委員

先ほど松本さんが言われたみたいに、私も娘が結婚する時に聞いたことがあります、「府中に住みたいけど、家賃が高くて住めない」と言われました。

それで市内に住んでいましたが、今は転勤で東京の方に行ってしまい、多分もう戻ってこれないだろうと思っています。

最近はコロナの関係で、児童センターも来館される方が以前に比べると減っています。私たちも、子どもたちがずっと家にいて気が滅入ってしまうのではないかと、人と会えないで寂しいのではないかと、順調な成育ができないのではないかと、このことをすごく心配していて、ぜひ来て頂けるように工夫しています。今のところは、おもちゃの消毒などをして、安心して来て頂けるように心掛けています。

ハッピーズは市内に近いこともあり、広島市の方も多くいらっしゃいますが、その中で「府中町はこういう遊びに来て安心できる場所があって良いですね、広島市にはなかなかないです」という声を聞きます。そういう声を聞くと、ますます頑張らなければならないと思いながら、日々仕事をしています。

町内でも、北部だけでなく、南部からも来られる方がいらっしゃいます。車を持っていない方に関しては、コミュニティバスを使って来られる方もいらっしゃるのですが、時間帯とかバス停の関係で中々来られないという方もいらっしゃいます。今から向洋駅周辺の開発も進んでいくと思うので、もっと細かく回ってもらえるようになるのかなと期待してはいるのですが、その辺りをもっと進めていただけたら、若い人たちが子どもを連れて気楽にバスに乗って移動できるようになり、良いのではないかと思います。

今はコロナの関係で、小学生たちも遊びに来てはいますが、保護者の方から「不特定多数が出入りする所なので行ってはいけない」と言われている子もいるみたいで、以前はよく来てくれていたのに最近見かけない子もいます。これからどうなっていくのかということを私たちはすごく不安に感じていますので、こうしていけば良いという方向性があればと感じているところです。

○座長（上之園委員）

それでは、府中町にお住まいの方からご意見を頂いていますので、中村委員、ご意見はありますか。

○中村委員

まず府中町といえば交通機関が非常に便利ということで、天神川と向洋という2つの駅があり、そして山陽道が非常に近いということで東広島、尾道、福山という辺りで会社勤めされる方が多いと聞いております。子どもたちについては、広島市に非常に近いので、市内の学校に自転車で通学したり、あるいはJRを使って東広島あたりの学校に通っている生徒もたくさんおり、学校を選ぶ選択肢が増えているのではないかと思います。先ほどの地価が高いという話ですけど、これだけ都市に近い便利なまちはほとんどないです。買い物が便利ですし、大きなスーパーもあり、色々な意味で生活圏として便

利ですが、地価が上昇するのはどうにもならないと思います。住みたいという方は確かに多いですが、この近辺でお勤めになっている18歳から20歳くらいの自転車で通っている人は、1DKくらいの部屋に住んでいるということを知っています。

それと、一つ嬉しく思ったのが、親が府中町に住んでいる方について、60歳くらいで定年退職して、ご夫婦で府中町に帰ってきて親御さんと一緒に住む方が増えていると聞いたことです。府中町には親もおり、都会にいる必要もないから、府中町に戻って第2の仕事場を求めておられる方がいると聞いて、住まいが循環しているということで嬉しく思いました。府中町は便利が良いことは皆知っていますので、親が住んでいて土地もあるということもあり、一緒に安心して暮らせるまちだから帰って来たということを知っています。

それと、やはり今はコロナで商売が非常に大変な時期です。力強く生きる資質を備えなければいけないということで、小学校、中学校でも学習面で色々とされていると思いますが、大人ももっと力強く向かっていくということがこれから必要だと思います。災害にしても病気にしても、何が起こるか分かりませんので、そうなった場合にどうするかが大切です。昨日新聞で見たのですが、町内事業者支援として、10月からスタンプラリーを開始することが議会で決まったとありました。あと、PASPYのチャージかタクシー券を全町民に1,000円分与えるということで、これはすごく嬉しい支援です。このスタンプラリーにしても、府中町にはたくさんの店がありますが、店に行って500円以上買ったら一つスタンプを押してもらって、4か所分のスタンプをもらえば1,000円分のキャッシュバックがもらえてまた買い物ができるということで、こういう支援をしていただくと、府中町に住んで良かったという思いになります。

今は色々な商売が大変な時です。その中で、地元の商店に出向いて購買すればキャッシュバックがあり、お互いが潤うということで、行政がこうに支援してくださることは我々町民として嬉しいことです。そういうことで、とにかく力強く生きることが出来る府中町でありたいと思います。

○座長（上之園委員）

これまで町内にお住まいの方を中心に伺ったのですが、ここからはそれぞれの立場でご意見を頂きたいと思います。今回は4番目に魅力発信という新しい項目も出ましたので、そちらのご意見を頂きたいと思います。

○藤川委員

資料を読ませて頂いて、私も4番の魅力発信というのが魅力的に映りました。先ほど谷口さんからもご紹介頂いたのですが、府中町ご出身の漫画家さ

んに手伝って頂き、PRする動画を制作されたという話を伺いました。これについては、4番の魅力発信をやる上でベースになる、きっかけになるのではないかと思います。せっかく魅力的なキャラクターができましたので、これを来年度以降もっといろんなPRに使っていく、動画を作ることもそうだと思いますし、いろんな印刷物に掲載するとか、色々な使い方ができると思います。府中町ご出身の方が作られたということも、人気漫画の作家さんということも、ネット世代や若い世代に効果的な要素がたくさん詰まっていると思いますので、ぜひこういったことをやられると良いと思います。

ネットで若い人たちへ効果的な要素としては、情報の物量だと思います。SNSにしても動画にしても、人気の発信者さんたちがやっているのは、とにかく物量を出すことです。より多くインターネットで目にする機会を増やせば、認知してもらえるきっかけになると思います。1本作ってそれを再利用することでも良いとは思いますが、こんな言い方をすると身も蓋もないですけど、多少質は落ちてでもいいからたくさん作ることで、より多く出していけば良いと思います。インターネットは県内だけでなく日本全国、もっと言うと世界中の方が見えていますので、例えば、東京に住んでいる人が都会暮らしに疲れて、ほどよいまちに住みたいという時に、その情報に接して、「東京なんて1時間かけて行って大変だったのに、広島市まで電車で10分くらいで行けて楽だよね」といったことを思ってもらえるような情報発信をすれば効果的だと思っています。

また、今後の情報発信に気を付けて見ていきたいと思っています。

○座長（上之園委員）

それでは、地元企業でお仕事をされている原田委員から、何かご意見はございますでしょうか。

○原田委員

やはり今の時代はSNSによる情報発信ということで、うちの娘も27歳と23歳ですが、特にこのコロナの自粛の中でスマートフォンの画面を見ている時間が長いです。その中で情報を得るといっているのであれば、藤川さんの言われたように、いかにソーシャルネット送信を使って、この府中町の魅力を、どこにポイントを置いて、すぐ見られる環境を整えるかということが非常に大事なかなと思いました。

今マツダはOBさんが1万4千人いて、その代表者が集まって年に1回会議をするのですが、その中でたまたま府中町の方がおられました。その方の娘がこちらに家を買って先日東京から帰ってきたそうなのですが、なぜ帰ってきたかというところ、ここの子育てが魅力で、「ここに住んでいれば幼稚園、小学校、中学校、高校、そして広島市内でも色々な仕事ができるので、ここに

住んでいればいいだろう」ということで帰ってきたと言われていました。また、そのOBさんも「改めて府中町はいいところだ」とみんなの前で紹介されていました。

この総合戦略を見直す中で、ぜひプラスで魅力を発信できることをやっていただきたいと思っている中で、少し外れるかもしれませんが、コロナによる新しい生活様式をどこかで取り入れながらやらないと逆に人が逃げていってしまうと感じました。新しい考え方で戦略を作っていけば、まだ府中の魅力を発信できると感じます。

○座長（上之園委員）

それでは、地価や住宅状況など、大きな問題がたくさん出てきましたが、こちらについてはいかがでしょうか。

○平野委員

今日も話が出て、前回の会議で私も触れた記憶がありますが、府中町は委員の皆さんがおっしゃるように、利便性が高く、環境が充実していて、おのずと地価が高くなっています。町としても、そこはブランドになるとのスタンスで、それは理解できるのですが、一方で、住みたいけどそもそも賃貸の物件がないということもよく聞きます。実際、我々もアパートの案件をやっていますが、なかなか3LDKがないので分譲しかない、分譲を買うにしても非常に高いという印象があり、そのため、子育て世代が入ることについては難しいと思います。家賃の補助や、住宅購入を財政面で支援する制度については財政の問題にも関わるので非常に難しいと思いますが、町として子育て世代を応援しますと言うからには、そういう制度の導入について踏み込んだ検討をしてもいいのかという気はします。

あと、都市基盤の整備を充実しますということですが、次期戦略の基本的方向に「ふちゅうブランド」という言葉があります。府中町には、府中町ならではの設備もたくさんあって、例えば揚倉山健康運動公園の整備をされて、来年から新しい形になると聞いていますが、こういったところも魅力発信として積極的にやっていければと思います。我々銀行としても色々な自治体さんと連携して、発信のやり方や利用者さんの拡大など、改めてその辺りの情報提供を今後もやっていきたいと思っています。

○座長（上之園委員）

最後に桑原さんからお話を頂こうと思いますので、私から話をさせていただきます。

先ほどの人口増の一つの手がかりとして、マンションがいくつかできるという話がありましたが、マンションのコマーシャルで「天神川駅に近い」と

か「ショッピングモールに近い」などと流れていました。駅に近く、ショッピングモールも近く、便利なマンションということですが、それは廿日市でも東広島でもいい所はあるかもしれないわけで、それだけしかアピールポイントがないのかと感じます。4番目が魅力発信となっており、何を発信するのかというところで、ニーズに応えるというのは絶対にやらなければいけないですが、攻めていく、ニーズを作り出すということがあっていいと思います。

これからも企業さんがマンションを作られると思いますが、コマーシャルをする時に、例えば「府中町に住める幸せ」とか「いつかは住みたい府中町」というキーワードがどのコマーシャルにも出るようなタイアップをすることもありだと思います。近いだけではない“憧れの府中町”だというキーワードでこちらから攻めていく。一方で、若い世代は賃貸に住むということになりながらも、部屋が少し狭くても、それでも府中町に住んでいることが自慢できるようなステータスがあってもいいと思います。

また、ニーズを作り出すということについて、教育についてです。無理をしてでも子どもに良い教育、高いレベルの教育を受けさせたいということで、私立や大学の附属の学校に受験させる家庭があるとするならば、もちろんそれも選択肢ではありますが、大きな市町は小・中学校の数が多くなかなか均一にはいかないと思う一方、府中町内の小・中学校は「一緒に頑張ればどこでもこういう教育ができ、こんな子どもが育つ」といったことを示せると思います。このように、「公立が心配だから私立や附属に行きたい」というのではなく、「ここで教育を受けたらこんな子が育つから、ここに住みたい」といった、こちらがニーズを作り出すことで、府中町が選択肢に入っていくというのも一つの方法かと思います。

このように、何を発信するのかということも、これからマンションに期待するのであれば、やっていったらいいのかなと思いました。

それでは、最後に行政の方から、桑原さんお願いします。

○桑原委員

まず、府中町には広島県版のネウボラの最先端モデルを実施していただき、教育委員会も含めてご協力いただき、感謝申し上げます。子どもの見守りに関して言えば、県内で府中町がトップランナーです。そういうところをシティプロモーションでPRしていくこともあると思いますので、そこをお願いしたいと思います。

令和元年度末検証のところで検証してほしい点がありまして、まず1点目が、子育て世代女性100名あたりの0歳児数が8.65であり、年度によってまちまちであるという話についてです。ここの検証の方法が難しいということもありますが、例えば事務局の説明で「不妊治療支援を77人に実施

しました」と報告がありましたが、それで何人生まれたのか、それが毎年どうなのかというような分析を、もう少し追跡していただけたらと思います。また次回、工夫して報告いただければと思います。

もう一つ、参考資料2の転入出差の傾向のところで、50代の転出が増加しているという気になるデータがありました。中村さんから、親御さんと一緒に住むということで60歳を機に帰ってくる世帯もあるという話があった一方で、データとして転出になっているところもあることから、転出理由・要因を人口動態の点から、あるいは転入出表から少し掘り下げた分析と、そこに対しての打ち手があるのなら対策を講じることが必要かと思いました。

次年度から始まる総合戦略と人口ビジョンについてですが、3点ほど、次回の中間取りまとめまでにご検討いただきたいお願いがございます。

まず、出生率の向上ですが、資料1-1の3の(1)について、2020年の出生率を1.70に仮定していますが、2018年の出生率は、府中町はどうだったのでしょうか。ちなみに全国一位の沖縄県で1.89ということからすると、1.70というのは大分高い仮定になっているのではないかと思います。府中町が今1.70くらいならいいですが、そこを知りたいです。

○総務企画部次長兼政策企画課長

独自で算出したものでは1.69です。

○桑原委員

それならずれは無さそうですね。1.70とあまり乖離があると、今後の計画そのものの土台がどんどん乖離が出ていく可能性があったのですが、

1.69なのでそこはいいと思います。それを踏まえて、出生率を2030年までに2.07とし、それ以降安定ということで、2020年から2030年の10年間の取り組みがいかに重要かということが分かると思います。この出生率の推移をどのように置くか、戦略の中で出生率をどう上げていくのかということを、バックキャストで10年間の施策と取り組みの事業案を組み立てて実行することが非常に大事だと思っています。

次に、資料1-1の裏面の「4. 見直しの概要」の表ですけども、「転入・転出の想定」のところで、「義務教育期間までの子どもの転出超過数が半減するよう、子どもを含む世帯が転出しなかった状態を試算」ということになっております。これはこれで現実を見据えて半減したいという町の思いとして評価できるのですが、半減させるために何が必要かということ、次回の中間取りまとめまでに見せていただければと思います。

最後に、去年の有識者会議でもご意見をさせてもらったのですが、資料1-3の今後の方向性について、子育てをまず第1に持ってきて、それを中

心に注力するという戦略の方向性は良いと思いますが、これについてお願いが一つあります。

今住んでいる方々が死ぬまで住み続けていただくという視点で、例えば基本的方向の2番のタイトルが「子育て世帯が安心して暮らせるまちの整備」となっていますが、防災や減災、新型コロナウイルス感染症への対策は全世代に共通する課題であると思いますので、「子育て世代を含め全世帯が安心して暮らせるまちづくり」とするなど、タイトルを変えるだけでも違うと思います。2番が難しいようであれば、3番の「ふるさととして子育てできるまちづくり」ではなくて「ふるさとを自慢できるまちづくり」とするなど、そういった形で、今住んでいる人もこれから転入してくる人も、皆が活躍できるまちであるといった方向性を出して頂けるとありがたいと思います。特に、人口の半分以上を40代以上が占めている状況の中で、その町民に対する打ち手というのもメッセージとして出した方が良いと思います。子育てをメインにすることはおかしくはないですが、そういうところもあっても良いと思いました。

あとは、今は空き家が少ないという状況なので、引き続き空き家が少ない状態で推移できるように、色々な施策を融合させて、民間企業さんと連携を取って子育て世代に空き家を紹介することもありなのかなと思います。先ほど家賃が高いという話もありましたが、そういったところも打ち手のヒントになると思いますので、検討されてみたら良いと思います。

また次回の中間報告を楽しみにしていますので、よろしくお願いします。

○座長（上之園委員）

予定された時間になりましたが、他によろしいでしょうか。

活発なご意見をいただき、ありがとうございました。

町におかれましては、引き続き、人口ビジョンの見直しや次期総合戦略の策定に向けた作業を継続されると思いますが、本日の会議で委員の皆さんから頂いた意見等も十分参考にさせていただきながら、進めていただきたいと思います。

最後に、「今後のスケジュール」について、事務局から何かありますか。

○総務企画部次長兼政策企画課長

本日は大変お忙しい中ご参加をいただき、ありがとうございました。

本日ご議論いただいた内容につきましては、頂いたご意見を踏まえて整理し、8月19日（水）に開催予定の議会委員会へ報告を行います。

次回の会議につきましては、年度末の2月頃を予定しております。その際には、人口ビジョンと次期総合戦略の原案についてお示しし、ご意見を頂いた後に、パブリックコメントを行いたいと考えております。

なお、次回会議まで間が空きますことから、11月頃を目途に、書面での情報提供をさせていただきたいと考えております。委員の皆様におかれましては、ご確認の上、ご意見等を頂ければと思います。

最後に、本日の会議の議事録を事務局で作成しますので、内容のご確認について、後日改めてご連絡をさせていただきます。

以上、今後のスケジュールでございました。

5) 閉会

○座長（上之園委員）

それでは、議事を終わりたいと思います。

閉会にあたり佐藤町長よりご挨拶を頂きます。

○町長

委員の皆様におかれましては、様々な立場から、様々な視点で、多様なご意見を頂き、大変ありがたく思います。

魅力発信についてですが、何年か前に奈良県の生駒市へ視察に行きました。生駒市は大阪に近いのですが、大阪の映画館で生駒市のコマーシャルを流して人を呼び込んでいました。そして、転入してきた時にアンケートを取っているのですが、子育てや教育といった施策の中身は知らないで、イメージで転入してきている人が多いということでした。魅力発信はそういう側面も持っているということをお聞きして、“そういう視点はなかった、それは必要だ”と思ったと同時に、“中身もちゃんとしなければ後でしっぺ返しが来る”とも思いました。その魅力発信の内容について多様な目線から多様なご意見等を頂けたということで、非常にありがたいと思います。

次期総合戦略の策定に当たりましては、本日の皆様のご意見を踏まえながら、府中町の直面する課題の克服に向けて実効性のある計画となるよう進めてまいりたいと思います。また、本日の会議も新型コロナウイルス感染対策で時間が短かったこともあり、まだまだご意見があると思いますので、何かお気づきの点やご質問、ご意見があれば、会議の後に遠慮なく事務局にお伝えいただければありがたく思います。

引き続き、地方創生に向けた府中町の取り組みについてご協力を賜りたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。

○座長（上之園委員）

本日は、大変お忙しい中、ご協力をいただきまして、ありがとうございました。

以上をもちまして、本日の会議を閉会いたします。

大変お疲れさまでした。

(午後 3 時 3 0 分閉会)